



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2009.4

No. 300

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



『しらこぼと』特集(+α)目録

2005年1月号～2009年4月号

『しらこぼと』は1984年(昭和59年)の5月・6月合併号を創刊号とし、今月の4月号で300号をむかえることができました。これもひとえに、埼玉県支部会員一人一人の力の結晶であり、改めて感謝申し上げます。

さて今回の目録は、カラー印刷に踏み切った通巻249号から300号までのものです。創刊号から200号までの目録は200号(2000年12月号)を、201号から248号までは248号(2004年12月号)をご覧ください。

2005年(平成17年)

月号	通巻	表紙の写真	特集 / +α
1	No.249	ジョウビタキ	埼玉県におけるタカの渡り19年
2	No.250	ルリビタキ	ピンポイントフィールドガイド 秋ヶ瀬公園・子供の森
3	No.251	シロハラ	マイフィールドガイド 羽生水郷公園
4	No.252	カケス	武蔵丘陵森林公園・北口周辺における森林の変遷と鳥類相1993年～2005年
5	No.253	モズ	ロタ島に行ってきました /全国野鳥密猟問題シンポジウム報告「いまこそ“野の鳥は野に”」
6	No.254	アオバト	あの人の双眼鏡は…… /少しの譲り合いと普通の挨拶を
7	No.255	マミジロキビタキ	石川県軸倉島 3グループの記録 /夢見心地の鳥見と痒み 初めての軸倉島の記録
8	No.256	ギンザンマシコ	平成17年度(第21回)支部総会を開催
9	No.257	コアジサシ	私の散歩道・寺尾調節池 /支部野鳥記録委員会の最新情報(オウチュウ、サカツラガン)
10	No.258	コゲラ	黒い鳥ウォッチング・カワウとカラスー / (No.254の続き) あの人の双眼鏡は……
11	No.259	アオジ	私の遊び場・マイフィールド 見沼自然公園とその周辺
12	No.260	オオジュリン	おがさわら丸航海記

2006年(平成18年)

月号	通巻	表紙の写真	特集 / +α
1	No.261	コハクチョウ	チベット紀行
2	No.262	シジュウカラ	埼玉県平野部におけるカラス類 近年の動向
3	No.263	オシドリ	アラスカ州セントローレンス島ギャンベル探鳥記 /野鳥記録委員会の最新情報(シジュウカラガン、サカツラガン)
4	No.264	チュウサギ	春4月! ご近所の鳥たち
5	No.265	ルリカケス	県内鳥見、オーバー100への道 /野鳥記録委員会の最新情報(アメリカコハクチョウ)
6	No.266	サンコウチョウ	高麗川の野鳥 / (No.265の続き) 県内鳥見、オーバー100への道
7	No.267	ツミ	渡良瀬遊水池への期待 / (No.265の続き) 県内鳥見、オーバー100への道 /野鳥記録委員会の最新情報(アカアシチョウゲンボウ、アカツクシガモ)
8	No.268	シジュウカラ	平成18年度(第22回)支部総会を開催 /野鳥記録委員会の最新情報(シロハラクイナ)
9	No.269	アオアシシギ	御蔵島&三宅島に行ってきました /シロハラクイナ繁殖地での農薬散布についての要望書と礼状
10	No.270	ノビタキ	2006年夏 コアジサシのコロニー保護活動 /野鳥記録委員会の最新情報(シロハラクイナの繁殖)
11	No.271	カシラダカ	2005/2006年冬鳥異変、さて今年度は……
12	No.272	アカゲラ	さいたま市深作川遊水池 加須はなさき公園探鳥会のご紹介

2007年（平成19年）

月号	通巻	表紙の写真	特集 /+α
1	No.273	ハクガン	第30回 関東ブロック協議会の報告
2	No.274	ルリビタキ	さいたま市・大宮市民の森探鳥会
3	No.275	メジロ	さきたま古墳公園とその周辺の野鳥
4	No.276	ヒバリ	知っているような知らないような 野鳥の用語
5	No.277	タカブシギ	身近な探鳥地 大宮公園とその周辺
6	No.278	フクロウ	シロハラクイナの声の伴奏つき田植えを楽しみました /野鳥記録委員会の最新情報（ヨーロッパトウネン、シロハラクイナの越冬）
7	No.279	アオゲラ	よかつたあ〜!、三宅島!! /もしかしたら温暖化の影響?
8	No.280	セイタカシギ	平成19年度（第23回）支部総会を開催
9	No.281	ヤマガラ	50歳、セントポール島遠征記 /ミゾゴイの声の記録
10	No.282	タシギ	荒沢沼 カワウ・コロニーの今! /野鳥記録委員会の最新情報（オーストラリアセイタカシギ、シベリアツメナガセキレイ） /秋の危険な生物2種にご注意ください
11	No.283	ノゴマ	サンズイのトリと鳥 /締めくくりの稲刈りは幸運に恵まれました /野鳥情報の取り扱いについて
12	No.284	コガモ	エトピリカに会いに齒舞・色丹島沖へ /県内のシラコバト生息情報をお知らせください

2008年（平成20年）

月号	通巻	表紙の写真	特集 /+α
1	No.285	アトリ	2000-2001年見つけ隊調査によるシラコバトの生息実態 /野鳥記録委員会の最新情報（ハジロミズナギドリ）
2	No.286	コミミズク	『秋水田んぼ』のささやかな成果 /野鳥記録委員会の最新情報（オオチドリ、カリガネ）
3	No.287	モズ	仕事の前に、ちょこっとBW
4	No.288	ツグミ	ぜひ、また行きたいホンコン! /野鳥密猟問題シンポジウム参加報告
5	No.289	マミジロキビタキ	シラコバトを見た!
6	No.290	ツミ	クマタカ探鳥記
7	No.291	ミンサザイ	雨の日は国会図書館で
8	No.292	レンカク	平成20年度（第24回）支部総会を開催 /先月号の『雨の日は国会図書館で』の続き
9	No.293	カララヒワ	カニ、プランクトン、ときどき野鳥
10	No.294	エゾビタキ	マイフィールドと出会った鳥たち /野鳥記録委員会の最新情報（アメリカムナグロ）
11	No.295	ジョウビタキ	奥日光・千手ヶ浜へ行こう
12	No.296	ヨシガモ	タカの渡り報告 /2008年度 シラコバトの生息

2009年（平成21年）

月号	通巻	表紙の写真	特集 /+α
1	No.297	ベニマシコ	221+286=302?? 支部探鳥会記録のデータベース化ができています! /先月号『タカの渡り報告』の続き
2	No.298	メジロ	谷口高司氏講演『フィールドガイド 日本の野鳥』（前編）
3	No.299	ヒレンジャク	谷口高司氏講演『フィールドガイド 日本の野鳥』（後編）
4	No.300	マヒワ	『しらこぼと』特集（+α）目録 2005年1月号～2009年4月号 /野鳥の会とともに50年

昨年、(財)日本野鳥の会(本部)の事務所から1通の手紙がきた。「あなたは入会50年になりました。昨年より入会50年を経過した方は本部会費を免除することになりました」という内容だった。

50年は長いね、ざっと半世紀。なにしろ古いことで記憶もかなり薄れてきたが、懸命に思い出してみた。

● **入会したのは確か昭和32年(1957年)**か33年で18~19歳、学生時代ということになる。『野鳥』誌の新規会員名簿に、自分の名を見つけて、会員を実感した記憶がある。

その頃、世の中はまさに映画『ALWAYS 三丁目の夕日』そのものだったね。やはり昨年話題になった東京タワーも、完成したてのほやほやのときだったと思う。世田谷区内に下宿していたので東京支部へ入会した。

当時、野鳥の会本部事務所は渋谷南平台にあった山階鳥類研究所内に間借りで、東京支部事務所も同居?だった。鳥学会の例会もここで行われていた。研究所の建物は瀟洒な2階建てレンガ造り。入り口にある何かインコのような小鳥のステンドグラスが印象的だった。東京支部は著名人が多く、先輩方では高野、浦本、笹川、岡田さんたちなど、そうそうたる顔ぶれだった。一介の学生からは雲の上の人々に感じられたね。

しかし「皆、鳥が好き」という共通点で探鳥会、月例会を通じてお付き合いをさせていただき、多くのご指導、ご教示をいただいた。また私と同年代と思われるいわゆる若手では、現在も活躍されている塚本、蓮尾、柳沢さんがいた。

● **探鳥会**は現在と同様活発で、参加人数は20人前後というところだった。まだ双眼鏡など非常に高価な時代で、手ぶらで参加の人も多く、私は高校時代に何年もかかって貯めた小遣いで買い求めた6倍の双眼鏡で参加したものだ。

● **明治神宮は毎月例の行事**。担当の小泉幹事に導かれて苑内を歩いた。オンドリが印象に残っている。また笹川さんの体験鳥談義「ハ



オオジュリン(久保田忠資)

ヤブサが池でカモを捕らえ、重そうに、林すれすれに持ち去った」などを思い出す。

● **東京湾の干潟**では、浦安とか鴨猟場方面によく出かけた。当時、浦安の町は海辺近くにあり、総武線の市川、本八幡駅あたりからバスで行った。浦安小学校前のバス停で降り、アサリの貝殻が敷き詰められて出来た道路を少し歩くと海(干潟)だった。

海岸堤防に沿って松林があり、それを掠めるように数羽のマガンが飛んでいたり、潮がみちてくると多くのシギ・チが次第に海岸に近づき、最後には水面に突き出たコンクリートの上にズラリと並んで羽根を休めていたりして、それを一同が堤防に座ってノンビリと見ていた情景を思い出す。

まだフィールドスコープは登場していないので、識別にはいろいろの意見もでていたね。1羽のハクガンが降り立ったのもそのころだったかな?

● **その他、高野リーダー**による浅間山探鳥会では、松林を移動するイスカの群れ、山中湖探鳥会でのオオマシコなどが思い出に残っている。高尾山、富士山五合目お中道、奥日光などにも行ったが、現在の埼玉県支部ともダブってくる。

● **月例会**は毎月、会場を変えて識別講座、スライド映写などを行っていた。野外と異なり室内での交流は、知識は無論だが、会員親睦の意味からもよかったと思う。中西会長も時々参加されていたね。

思えば随分長いこと鳥を見てきた。しかし、「好き」なものには飽きることがないらしい。最近の鳥見、ますます新鮮で、気合が入っている。



野鳥情報

川口市西新井宿 ◇12月23日、アトリ♀1羽。各地で観察されているようだが、当地でも観察できた。去年までなら、シルエットで「カワラヒワ」と同定しただろう。やはり、1羽1羽丹念に見ていく必要がある（須崎聡）。

蓮田市城沼公園 ◇12月24日、アトリ15羽士の群れ。12月30日、アカゲラ1羽、ナラ林で採餌。1月5日、近頃シロハラが目立つ。今朝は珍しくケヤキの枝にアカハラ。1月20日、ツグミ8羽とシメ5羽が東城沼の水面上でホバリング。今冬はシメが多い。電線にツミ。散歩の人に教えたら目を丸くしていた。1月26日、いよいよ食べ物が無くなったか、ヒヨドリ20羽士がブロッコリーの葉を採食（長嶋宏之）。

蓮田市川島、笹山、黒浜、江ヶ崎 ◇1月7日、今年2度目の地元探鳥。まず川島橋上流でヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ、キセキレイなど。笹山ではアトリの群れが。今シーズンのアトリポイントのひとつとなる。黒浜沼ではカモ科3種、サギ科2種、クイナ科2種、いつもの通り楽しませてくれる。江ヶ崎の森ではカヤクグリらしき姿を見るも、すぐ藪にもぐる。確認の楽しみができた。直後、上を見るとハヤブサ。最近この近くでよく遭遇する。東埼玉病院そばでは久しぶりにコジュケイの姿。ひとりで巡って41種に会うも、タゲリ、アカゲラに全く会えず、カモやビンズイが少ないことが気になる。1月14日、黒浜運動公園でやっとビンズイに会え、ホッとする。その後同所で、シジュウカラの群れの中にヒガラを見つける（田中幸男）。

蓮田市蓮田 ◇1月13日、蓮田南中学校の校舎と田んぼに大きなカラスの群れ。近づき確認すると、ミヤマガラス。この付近では2006年12月以来で、観察例の多い閩戸地区から南下が進むのか？（田中幸男・和子）。

蓮田市黒浜 ◇1月17日、下沼周囲のアシ原にノスリ・オオタカ、そしてチュウヒがほ

ぼ同時に出現。（中島康夫・藤掛保司・田中幸男）。◇1月17日夕方、オシドリ♂1羽がハスの葉の間に居た（細田敦史）。

羽生市羽生水郷公園 ◇12月25日、カルガモ50羽士がキュンキュン羽音を立てて上空を旋回。トビ4羽がタカ柱。カワラヒワ10羽士がモミジバフウの実を食べていた。ベニマシコ♂とにらめっこ。順光のカワセミがきれいだった。その他、カシラダカ、ホオジロ、オオジュリン、シメ、ツグミなど多数（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区黒谷 ◇12月26日午前11時、田んぼでタゲリ18羽飛ぶ（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇12月31日、ゴルフ練習場のそばでチョウゲンボウ1羽（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月3日、村国池手前の水場でウソ♀が水浴び。1月5日、同じ場所でウソの鳴き声を確認（長野誠治）。◇1月4日、村国池の周辺でエナガの声がするので、奥の林を確認したところエナガ2羽、他にシジュウカラ、メジロ。カケスの声（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区馬込 ◇1月12日、綾瀬川河畔の木にオオタカ成鳥がしばらくとまっていた。逆光ながらその雄姿を楽しむ。その後、菜園に寄ると頭上でオオタカがカラスに追われて、南方向へ。同じ個体と思われる（田中幸男・和子）。

さいたま市岩槻区掛 ◇1月18日、元荒川城北大橋上流左岸の砂利敷きの駐車場でシラコバト7羽、ドバトと一緒に餌を探し回っていた。さらに2羽が畑に飛び込み、1羽が近くの木に止まる。同時に10羽を確認できた。通常2～3羽しか見られないので、久々の大収穫にニンマリ（長野誠治）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇1月2日、シメ100羽+が地上で採餌。人やカラスに飛び上がってはまた降りる、を繰り返していた。その中に、イカル4羽（海老原美夫）。

さいたま市緑区見沼代用水西縁 ◇1月10日、大牧橋周辺の梅林でシラコバト1羽。1月15日、写真撮影に成功（船木数樹）。

さいたま市緑区南部領辻 ◇1月12日、ガン

カモ調査途中に加田谷川左岸の水田でタゲリ 8羽。1月初旬～中旬の期間は連日遭遇。1月18日以後は耕耘機が入った田んぼと、国昌寺西側、送電線下の雑草地の両区域で、3～4羽に分散して採餌中を確認。1月27日午前中、同たんぼでタシギ1羽、タゲリ3羽（船木数樹）。

さいたま市緑区宮本 ◇1月14日、案山子公園でアカハラ♂♀各1羽。シイの木（♂）とシラカシ（♀）が塹のようだ（船木数樹）。

さいたま市緑区宮本 ◇1月15日午前8時頃、磐船祭祀遺跡地でツグミ数羽、シメ数羽の群れとともにキレンジャク1羽。約7mの桜の枝上で冬芽を採餌。シジュウカラ数羽とアオジ数羽の群れ、ヒサカキの実を採餌（船木数樹）。

三郷市半田 ◇1月1日、シラコバト1羽。毎年、元日に杉橋養鶏所周辺に行っており、2年前までは10羽程度は普通に見られていたが、去年は2羽、今年はやっと1羽見ただけだった。例の鳥インフルエンザの影響で、養鶏所のガードが堅くなり、シラコバトが養鶏所内に入りにくくなり、餌にありつけなくなったせいだろうか（高田範之）。

久喜市菖蒲公園昭和沼 ◇1月1日、トモエガモ♂2羽♀2羽、キンクロハジロ200羽±、ヒドリガモ70羽±、ヨシガモ♂1羽、オカヨシガモ♂1羽、カンムリカイツブリ6羽。その他ホシハジロ、コガモ、カルガモなど多数。ビンズイ6羽が松林で採餌。工場の外階段の踊り場でハシブトガラスがヒヨドリを食べていた。1月18日、トモエガモ♂2羽♀1羽、ヨシガモ♂2羽♀1羽、オカヨシガモ♂2羽♀1羽。オナガガモ50羽±。その他キンクロハジロ、ヒドリガモ、カルガモ、マガモなど多数。ビンズイ5羽が松林で採餌（長嶋宏之）。

熊谷市津田新田 ◇1月2日午前、タゲリ1羽が上空を通過して大分離れた刈田に降り、チョウゲンボウ1羽が近くの電柱にとまったところが見られ、オオタカ1羽がカラスにモビングされているのも見られた（森本國夫）。

熊谷市箕輪 ◇1月2日午後、上空を飛んで



シメ 〈今井基雄〉

いたタゲリ1羽が急降下して刈田に降りた。こんな激しい飛行をするのを見たのは初めて（森本國夫）。

吉見町久米田 ◇1月10日、ミヤマガラス40羽±の群れ。荒川より西側で本種を観察したのは初めて（榎本秀和）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇1月13日、トモエガモ♂1羽♀2羽、各地で給餌を止めた為か今冬はオナガガモ♂35羽±♀60羽±。マガモ♂200羽±♀200羽±、コガモ15羽。林の中からルリビタキの音が響いた。ガビチョウも大きな声でさえずつた。その他カワセミ、カワウ多数など（長嶋宏之）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇1月14日午前、イカル100羽ほどの群れ。移動しながら、つる性植物の種子を採食（増尾隆）。

鴻巣市(旧吹上町)北緯36度5分24秒 東経139度26分24秒付近 ◇1月19日、タゲリ7羽、枯れた芝生で休息していた（竹山峯義）。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇1月23日、昨夜の雨で増水。少しの干潟にイカルチドリが集合。ハシビロガモ♂4羽♀3羽、オカヨシガモ♂2羽、その他コガモ、カルガモ多数。3月の陽気に誘われてか、シジュウカラがさえずつていた（長嶋宏之）。

桶川市若宮1丁目 ◇1月28日午後2時10分、自宅の団地管理事務所裏のクスノキに、アトリの群れ30羽±。積んである落葉で餌をあさっていた。12月からここと駅西口公園の間を巡回しているようだ（立岩恒久）。

表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属マヒワ

寺添捨男(さいたま市)



行事案内



シジュウカラ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も (なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：当地 15 回目の 4 月定例探鳥会、鳥見と花見の両方を楽しみます。ベニマシコの出現率は過去 14 回のうち 4 回、ルリビタキは 2 回、今年はどうかな。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈ヘルシーロードコース〉

期日：4月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口バス乗り場②番から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：桜をはじめとした色とりどりの花と、ツバメなどの夏の鳥たち、ツグミなどの冬の鳥たちをお目当てに歩きます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鷯飼、岡田

見どころ：多くの野鳥は繁殖のシーズンを迎え、大麻生もさえずりに満ちて来ます。暖かな陽差しを受けて、ゆっくり探鳥を楽しみましょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月12日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷

見どころ：早くも芽吹き始めた林を歩いて、夏鳥の姿を探し、春の湖畔で、残り少ない水鳥との、暫しの別れを惜しみましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月18日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：見沼田んぼに菜の花が咲き、ヒバリが高らかに歌っています。子育て中のシジュウカラの羽音を聞きに、友人を誘ってお出掛けください。

神川町・城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：4月25日(土)～26日(日)
定員に達したので締めきりました。

さいたま市・田島ヶ原自然観察会

期日：4月25日(土)
集合：午前9時、田島ヶ原サクラソウ公園トイレ付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口から志木駅東口行きバス8:25発、または志木駅東口から浦和駅西口行きバス8:10発で「さくら草公園」下車、徒歩約5分。または武蔵野線西浦和駅から徒歩約20分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)
ご注意：探鳥会ではありません。研究部担当の自然観察会です。

見どころ：テーマは「サクラソウの自然史」。サクラソウの花を見ながら、繁殖生態、生活史、自生地の存亡について学び、本来の生育環境について、荒川(入間川)の自然史の中で考えてみましょう。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月26日(日)
集合：午前9時30分、物見山駐車場(高坂方面から峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光バス鳩山ニュータウン行き8:53、9:04発で「大東文化大学」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：中村(豊)、岡安、島田、志村、後藤、増尾、高橋(優)、林、山田(義)
見どころ：山野の鳥と、群生しているチゴユリ、ツツジの花などを楽しみ、お出掛けください。下見の状況から、コースを

考えてご案内します。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月26日(日)
集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。
交通：京浜東北線浦和駅西口5番バス乗り場から、「大久保浄水場」行き8:35発で「十石田」下車、徒歩約2分。

担当：倉林、海老原、新部、赤堀、増田、金子、船木
見どころ：運が良ければオオルリ、キビタキなどが期待できます。そんなお客さんがいなくても、いつものシジュウカラ、コゲラなどの元気な姿でも楽しめます。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日(水・祝)
集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番から国民年金春日部エミナス行き8:41発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約3分。

担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)、進士
見どころ：屋敷林脇の小道を抜け、田植えの春の道も歩きます。渡り途中のキビタキなどの夏鳥に会えるかも。

大久保農耕地シギ・チドリ類調査

期日：4月29日(水・祝)
集合：午前9時30分 大久保浄水場北西角近くの土手の上、グラウンド入口。
担当：石井智

研究部担当の調査です。解散は昼頃。調査のため参加費は不要。雨天でも実施。シギ・チドリが大変少ないこともあります。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月8日(金)夜行(船中泊)～10日(日)
集合：8日(金)午後8時30分、JR山手線浜松町駅(東京寄り改札口前)。
出航：8日午後10時30分、東京港竹芝棧橋。

三宅島到着は9日午前5時の予定。
 帰着：10日午後8時30分、竹芝栈橋の予定。
 費用：30,000円(1泊3食、2等往復船賃、懇親会費、保険料など)。過不足のときは当日精算。その他島内常時必携ガスマスク代2,520円、島内移動バス代1,300円などは別途個人負担。

所持品：9日の朝食と昼食。

定員：20名(当支部会員限定、前回抽選外れの方優先、応募多数の場合は抽選)。

申込み：普通はがきに、住所、氏名、生年月日、年齢、性別、電話番号(携帯も可)、喫煙の有無を明記(乗船名簿記入、保険加入、部屋割りのため必要)して、藤掛保司まで。

4月3日(金)締め切り。

担当：藤掛、榎本(秀)、石光、青木、宇野澤
 見どころ：避難解除から4年、三宅島は特色ある自然がいっぱい。2年連続強風で行けなかった伊豆岬付近でウチヤマセンニュウを見ましよう。復路での海鳥ウォチングも楽しみです。

宿泊：9日の宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

ご注意：①火山性ガスの関係で、呼吸器官等健康に不安のある方はご遠慮下さい。

②天候などで帰りの船が欠航し、予定通り帰れない場合や、昨年のように、予定通りの探鳥ができない場合もあります。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月23日(土)～5月24日(日)

集合：23日午前9時10分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」(大宮7:18→熊谷7:31→長野8:43着)、または「あさま505号」(大宮7:52→熊谷通過→長野8:53着)。

費用：10,500円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充まで。

担当：菱沼(一)、藤掛、中里

見どころ：キビタキ、コルリ、クロツグミなどの夏鳥のオンパレードです。ここ数年、思い掛けない出会いもあり、今年は何が出てくれるのか楽しみです。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

2008年県内鳥見ランキング結果発表

観察鳥種数部門は、鈴木敬さんが7年連続チャンピオン。観察鳥種161種はすばらしい記録です。

探鳥会参加ランキングでは、影の事業部長である大坂幸男さんが行商でコソコソ稼いだ39回、みごとチャンピオンに輝きました。

観察鳥種数ランキング

順位	鳥種数	氏名
1	161	鈴木 敬
2	159	船木 数樹
3	142	佐藤 宏
4	136	野口 修
5	114	久保田 忠資
6	112	新部 泰治
7	100	田中 幸男
8	98	大坂 幸男
9	96	榎本 秀和
10	93	橋口 長和
11	89	四分一 保雄
12	80	浅見 徹
13	68	大井 智弘

探鳥会参加回数ランキング

順位	参加回数	氏名
1	39	大坂 幸男
2	34	新部 泰治
3	33	船木 数樹
4	27	佐藤 宏
5	27	野口 修
6	24	四分一 保雄
7	17	鈴木 敬
8	16	大井 智弘
9	12	浅見 徹
10	11	榎本 秀和
11	10	橋口 長和



行事報告

10月25日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミサゴ トビ チュウヒ コジュケイ キジ バン オオバン ハマシギ セグロカモメ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 谷中湖にはカモが浮かんでいるが、地味な色合いのメスタイプが大部分だった。あの鳥は何だろう? わいわいがやがや。この時期しか見られないエクリプスをじっくりながめるのもまた楽しい。ジョウビタキ、オオジュリン、ベニマシコなどの冬鳥たちも到着していた。期待していた渡良瀬名物のチュウヒの飛翔を最後に見つけて終了した。 (玉井正晴)

10月25~26日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 29名 天気: 曇

カイツブリ オシドリ カルガモ ヒドリガモ トビ オオタカ ノスリ タカ科不明種 キジバト アオバト アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ トラツグミ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス ムギマキ エゾビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ イカル シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 長野市内は太陽が顔を出していた。バスの高度が上がるに従い雲量が増していったが、景色は次第に鮮やかな紅葉へと変わっていった。バスを降りると天気割には寒く感じられなかった。鏡池に向かう途中、早くもキバシ

リを見つけた。その後、カラの混群にも出会い結構楽しめた。鏡池で昼食後、オシドリを観察した後、ムギマキ観察ポイントへ向かう。無事にムギマキを3羽見つける。その後もマヒワの大群、トラツグミとオオアカゲラのツーショット、再びムギマキと、充実した一日だった。翌日は、初日によく見られなかったマミチャジナイを探したが見つからず、ムギマキも見られなかった。気を取り直して場所を移動しての昼食後、ツルマサキにツグミ類の混群を発見! アオゲラのペアも加わり、探鳥会のクライマックスとなった。(菱沼一充)

10月26日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 21名 天気: 曇時々雨

ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ バン オオバン イカルチドリ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 公園の木の葉も色付き始め、柿も豊かに色付いているのに、ポツリポツリと雨が落ちてくる曇り空。小雨決行でスタート。ヒヨドリの声ばかり賑やかで、冬鳥が出てこない。休耕田にイカルチドリを見つけたのが、全員が見た最初の鳥で、しかもこの探鳥会初お目見えというラッキー。今月の鳥ジョウビタキは、もう家の庭に来たという人もいて期待がかかるが、ついに出てくれない空振り。前情報ではオシドリのエクリプスを古墳の池に確認している人がいるので、それにも期待がかかるが、カモの姿がチラホラのみでこれも空振り。時期的にはたくさんいるはずなのに、カモがまるでない年ってどうなっているのかな、みんな何処に行ってしまったのだろうねと、参加者の声。最後にオオバン(これも初お目見え)とバンをじっくり全員が見ることが出来て、かろうじて三振を免れた。(内藤義雄)

10月26日(日) 川越市 西川越

参加: 32名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ シ

メ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (31種) (番外：ドバト) 今にも雨
が降って来そうな空模様。まずは池でカモ等を見
てから、モズ、シメ、シジュウカラを見ながら河
原に。入間川でサギ、セキレイ、チドリと見てい
くと上空にユリカモメ1羽。ちょっと分かりにく
かった。それで何とか終了。参加された方々に感
謝。 (佐久間博文)

11月2日(日) 上尾市 丸山公園

参加：49名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ
モ コガモ オオタカ キジバト カワセミ コ
ゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(30種) 冬鳥との出会いを楽しみに出発したが、
あまりにも園内は静かで小鳥の姿がない。半ば諦
めムードとなる。ところが小滝に着いた時、キセ
キレイが石の上にいるではないか。傍にはアオジ
もいる。太陽が当たって一幅の絵画のようだ。少
し救われた感じ。意を強くしてカワセミの池に行
くも主がお留守。移動直前になってモミジの枝に
現れ、ラッキー！ 河川敷ではオオタカの飛翔と
ジョウビタキたちにも出会うことができ大満足。
(大坂幸男)

11月3日(月、休) 志木市 柳瀬川

参加：58名 天気：曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ ヒドリガモ チョウゲンボウ キジ イ
カルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワ
セミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ シジュウカラ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (30種) (番外：ドバト) 曇り空で風はなく穏
やかな探鳥日和。柳瀬川では冬鳥の飛来が年々遅
れ、数も少なくなってきた。畦道に止まった
チョウゲンボウ、イカルチドリ、カワセミ、ジョ
ウビタキを全員でゆっくり観察でき、セキレイ科
の4種も出現した。ヒドリガモの雄は冬羽にほと
んど換羽していたが、コガモの雄はエクリプスで

美しい冬羽は見られなかった。 (持丸順彰)

11月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：47名 天気：曇

カイツブリ カワウ アオサギ コハクチョウ
マガモ カルガモ チョウゲンボウ イカルチド
リ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュ
ウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (30種) (番外：ドバト) 晩秋の大麻生。
どんよりとした曇り空のもとスタート。土手に出
ると早速ジョウビタキがしきりにお辞儀をして出
迎えてくれた。何度見ても飽きない鳥だ。シメが
随所で飛び交い、冬鳥のシーズン到来を告げる。
田圃に出るとチョウゲンボウが姿を見せてくれた。
皆でじっくり観察できた。荒川の対岸の梢ではツ
グミがじっとして動かない。まるで辺りの様子
をうかがっているようだ。明戸堰では、今年から餌
付けを中止したコハクチョウが見られた。なんと
なくほっとした。 (中里裕一)

11月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

江浪功、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、千
野安以、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

11月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：13名 天気：曇時々雨

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ バン イソ
シギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハ
クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ
メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (32種) 天候の予測が難しかったが、
小雨決行でゆっくりした探鳥会になった。新しく
入会した春日部からの参加者以外は皆リーダーで
ある。雨上がりの代用水を歩き、芝川の橋めぐり
をする。ツグミ、アカハラ、アオジ、コゲラ、メ
ジロと小鳥類、カモも増えて来た。こんな小さな
探鳥会は三室では初めて、これもまた楽しかった。
(楠見邦博)



●支部HPで緊急のお願い

3月2日、支部ホームページに、次の文章を掲載しました。

日本野鳥の会埼玉県支部から緊急のお願い
レンジャクを観察・撮影するために、県内のある公園に連日100人以上が集まる、かつてない異常な事態となっています。

更に煽ることにならないよう、撮影された映像等をホームページ、ブログ、あるいは新聞、テレビなどで公開することを、レンジャクがいなくなるまで少しの間、控えてくださるよう、お願いします。

餌場・水場に近付きすぎないように、お願いします。

バードウォッチャーどうし、また、バードウォッチャー以外の一般の公園利用者ともそれぞれゆずり合い、楽しく公園を利用できるように、お願いします。

●大麻生駅ホームの看板撤去

1985年春に秩父鉄道(株)のご好意により設置された大麻生駅ホームの看板「大麻生の探鳥地(中略)日本野鳥の会埼玉県支部」が老朽化したので撤去したいとの連絡があり、支部役員会で相談、設置後約25年も経ち、十分役目を果たしてもらえたと、撤去に同意しました。長年の秩父鉄道(株)様のご好意に感謝します。今後も大麻生定例探鳥会などで鉄道も駅も利用させていただきます。どうかよろしく。

●県鳥獣保護員推薦

平成21年度県鳥獣保護員として、従来に引き続き、小荷田行男、福井恒人の2名を推薦しました。

●会員の普及活動

2月19日(木)さいたま市見沼区片柳公民館と見沼自然公園往復で開催された同公民館主催バードウォッチングで、松村禎夫・赤坂忠一が

指導。11名が参加、26種を観察しました。

●『野鳥』誌・本部HP 行事案内欄終了

従来全国支部の探鳥会案内が掲載されていましたが、4月からは本部ホームページに各支部の定例探鳥会のみを掲載することに变更、その他の探鳥会は支部会員にのみ届く、特典的な情報になります。

●会員数は

3月2日現在2,170人です。

活動と予定

2月14日(土) 3月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・喜多峻次・志村佐治)。

2月15日(日) 役員会(司会：山口芳邦、各部の報告・大麻生駅看板の件・21年度鳥獣保護員推薦・5月～8月の行事予定・探鳥会実施報告書の改訂案・その他)。

2月23日(月)「支部報だけの会員」に向けて3月号を発送 (倉林宗太郎)。

●事務局の予定

4月4日(土) 編集部・普及部・研究部会。

4月11日(土) 5月号校正(午後4時から)。

4月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

4月19日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

すったもんだの定額給付金。いろいろ考えて、野鳥の会(本部)に寄付しようと思っている。(山部)

ちょうど「パピヨン」が買えるんですね。でも、私も野鳥の会に寄付しよう。(みどり)

寄付したら景気刺激にならないから、なにかロードバイクの用品でも……。 (Moto)

しらこぼと 2009年4月号(第300号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社